

令和元年8月6日
医療保健部ライフイノベーション課

令和元年度第1回みえライフイノベーション総合特区推進本部会議事項書

日 時：令和元年8月6日（火） 9:15 ～ 9:30

場 所：プレゼンテーションルーム

1 みえライフイノベーション総合特区計画の取組状況について

【添付資料】

- 資料1 みえライフイノベーション総合特区計画の取組状況
- 資料2 みえヘルスケアインダストリー5.0 イメージ

みえライフイノベーション総合特区計画に係る取組状況

1 みえライフイノベーション総合特区計画の進捗状況

(1) 平成 30 年度末時点の総合特区計画に掲げる数値目標の達成状況

平成 30 年度は、「統合型医療情報データベースを活用した製薬企業等との共同研究契約の締結数」は数値目標の達成に至らなかったものの、みえライフイノベーション推進センター(MieLIP)による研究開発支援活動の活性化等に取り組んだこと等により、その他の数値目標を達成しました。

なお、平成 30 年度の実績に関する内閣府の評価については、令和元年 12 月頃に公表される予定です。

みえライフイノベーション総合特区計画 数値目標および進捗状況

指標		H29	H30	R1	R2	R3
(1) 統合型医療情報データベースを活用した製薬企業等との共同研究契約の締結数(累計) 4 件(平成 33 年度)	目標	《定性的評価》 情報収集体制 の構築	1 (件)	2 (件)	3 (件)	4 (件)
	実績	《定性的評価》 情報収集体制 の構築完了	0 (件)			
	進捗度	—	0%			
(2) MieLIP を活用して製品化されたヘルスケア分野の製品・サービス数(累計) 50 件(平成 33 年度)	目標	8 (件)	17 (件)	27 (件)	38 (件)	50 (件)
	実績	8 (件)	19 (件)			
	進捗度	100%	112%			
(3) ①ヘルスケア分野の製品・サービスの創出に伴う新市場開拓規模 240 百万円(平成 28 年度見込) →480 百万円(平成 33 年度)	目標	288 (百万円)	336 (百万円)	384 (百万円)	432 (百万円)	480 (百万円)
	実績	8,439 (百万円)	651 (百万円)			
	進捗度	2,930%	194%			
(3) ②ヘルスケア分野の製品・サービスの創出に伴う新規雇用創出数 40 人(平成 28 年度見込) →50 人(平成 33 年度)	目標	42 (人)	44 (人)	46 (人)	48 (人)	50 (人)
	実績	84 (人)	148 (人)			
	進捗度	200%	336%			
(4) ヘルスケア分野企業(第 2 創業含む)及び研究機関の立地件数(累計) 50 件(平成 28 年度見込) →100 件(平成 33 年度)	目標	60 (件)	70 (件)	80 (件)	90 (件)	100 (件)
	実績	68 (件)	85 (件)			
	進捗度	113%	121%			

(2) 令和元年度の主な取組

① 統合型医療情報データベース

- ・事業主体である三重大学医学部附属病院を中心とした9医療機関において、平成30年度末時点で約42.3万人分の医療情報が収集されており、現在、データベースのセキュリティ対策を含めた機能強化を進めています。
- ・三重大学と製薬企業等との共同研究締結に向けた取組を支援するため、企業訪問等を通じてデータベースの周知を図るとともに、他地域等の取組との連携可能性の検討を進めています。

② MieLIPの主な取組

ア MieLIP セントラル (三重大学)

統合型医療情報データベース事業による医療情報の収集を行うとともに、その利活用の検討を進めるほか、国内・海外ネットワーク構築の支援などに取り組んでいます。

イ MieLIP 鈴鹿 (鈴鹿医療科学大学)

社会連携研究センターを中心に、東洋医学研究所や各学部において医薬品等の研究開発等の支援を行うほか、鈴鹿高専との連携支援に取り組んでいます。

ウ MieLIP 津 (三重県工業研究所)

みえ産学官技術連携研究会の各検討会においてマッチングや試作等の支援を行うほか、各種技術支援事業に取り組んでいます。

エ MieLIP 伊賀 (三重大学伊賀研究拠点・伊賀市立上野総合市民病院)

三重大学伊賀研究拠点では、伊賀地域の文化を活用した高齢者向け新規食品の開発支援に取り組むほか、地域資源と地域社会とのネットワーク構築に取り組んでいます。

伊賀市立上野総合市民病院では、森永乳業(株)との協定によるがん患者を対象とした食品の臨床試験に取り組んでいます。

オ MieLIP 多気 (多気町)

アクアイグニス多気の開業(令和2年秋予定)に向け、具体的なコンテンツを検討する産学官の支援会議「多気ライフイノベーション会議」を開催するとともに、本草学の活用等の支援に取り組んでいます。

カ MieLIP 鳥羽 (鳥羽市)

「鳥羽の海藻」が持つ様々な魅力を食、観光、芸術、健康、美容等幅広い視点から活用し、地域の発展を目指す「鳥羽・海藻文化革命」事業の支援に取り組んでいます。

キ MieLIP 尾鷲 (尾鷲市)

ヘルスツーリズムの専門家のアドバイスを受けながら、「熊野古道健康ウォーキングツアー」などの健康増進に関するプログラムの研究開発の支援に取り組んでいます。

③ 総合特区支援利子補給金制度の活用状況

地域活性化総合特区支援利子補給金制度について金融機関や事業者等に周知を行い、平成30年度は1件の利子補給金の支給が決定しました。令和元年度においても、引き続き活用促進を図ります。

④ 規制緩和の提案

現在、国へ提案している案件はありませんが、事業者等への支援の中で必要な規制緩和の提案を検討していきます。

⑤ 特区推進に向けた県の取組

ア 情報発信

みえライフイノベーション総合特区計画の取組を積極的に情報発信するため、戦略的営業活動として、企業等への訪問時に本特区の取組や企業の活用例等を説明するとともに、企業の成果事例等については、広報誌「みえライフイノベーション NEWS」等で随時情報提供を行います。

イ 企業訪問等

県内外のヘルスケア分野の企業・研究機関等を対象に、県内ものづくり企業の技術シーズやMi e L I P等三重県独自の取組を発信する営業活動を行うとともに、その場を活用し、県内ものづくり企業や医療・福祉現場等とのマッチングにつながるようなニーズ収集を行います。市町訪問も積極的に行い連携を進めます。（平成31年4月から令和元年6月末までの企業訪問：のべ79社）

ウ 海外連携

三重県産業支援センター、三重県薬事工業会等と連携して、情報の収集や意見交換等を行います。

エ 医療・福祉機器等の製品化促進事業

医療・福祉機器等の製品開発については、医療・福祉現場と県内ものづくり企業とのマッチング、製品のブラッシュアップを支援します。

オ 認知症ケア製品等開発・普及加速化事業

認知症ケア製品等の創出に向けたニーズ収集や認知症ケア製品等の普及の促進等に取り組むとともに、認知症の人やその家族、医療・介護関係者、企業等が意見交換できる仕組みを活用し、認知症ケア製品等の開発につなげます。

2 今後の行事予定

- (1) 「医療機器技術マッチングサイト交流セミナー」への県内ものづくり企業の出展（主催：MTJAPAN、11月8日、於：千代田区内）

従来から広域連携による医療・福祉機器産業の活性化を目指してきた岐阜県、広島県等と協力し、医療機器の製造販売業者とものづくり企業とのマッチングを目的とした交流セミナーへの県内企業の出展支援を行うとともに、交流セミナー来場者と出展県内ものづくり企業とのマッチングの促進のため、来場者を中心とした医療機器メーカーへの訪問を行います。

- (2) 「第10回ヘルスケア・医療機器開発展[東京](MEDIX)」への県内企業5社の出展（主催：リードエグジビションジャパン株式会社、10月23日～25日、於：幕張メッセ）

医療機器メーカー等に対し県内企業の製品やコア技術をPRする展示会「第10回ヘルスケア・医療機器開発展[東京](MEDIX)」に三重県ブースを設置し、県内企業の出展支援を行うとともに、大都市圏を中心とした医療機器メーカー等と出展県内ものづくり企業とのマッチングの促進のため、来場者を中心とした医療機器メーカーへの訪問を行います。

3 総合特区制度を活用したみえメディカルバレー構想の推進

みえメディカルバレー構想第4期実施計画が本年度で終了するため、令和2年度以降は“みえヘルスケアインダストリー5.0”と称する新たな取組を進めることが、平成31年3月開催の「みえメディカルバレー推進代表者会議」において了承されました。

新たな取組においては、概ね10年先を見据えた「目指すべき姿」と「基本方向」のみ提示し、各実施主体がそれぞれ計画等を策定し、情報共有しながら連携を取って進めていくこととしています。

引き続き、総合特区制度の特例措置・支援措置等の周知・活用を図りつつ、みえメディカルバレー構想の推進に取り組みます。

みえヘルスケアインダストリー5.0

めざすべき姿

みえメディカルバレー構想の基本理念とこれまでの取組を踏まえ、本県が持つ高度なものづくり技術や人材など地域が保有する豊富な資源、産学官民連携の支援基盤等の強みを発揮し、ライノベーションを推進することにより、新たな健康需要や社会情勢の変化に対応したヘルスケア分野の優れた製品・サービスの創出、県民の豊かさに貢献しています。

みえメディカルバレー構想の基本理念

地域資源を有効に活用し、競争力のある医療・健康・福祉産業の振興に取り組み、活力ある地域づくりと県民の健康と福祉の向上をめざします。

“みえヘルスケアインダストリー5.0”とは、産学官民金の連携によるヘルスケア産業振興の取組の成果がみえメディカルバレー構想第4期実施計画で「開花」し、次の新たなステージへと進む(4→5)とともに、国が推進する新たな社会「Society5.0」をイメージしたものです。

「Society5.0」で実現する社会

- IoTで全ての人とモノがつながり、様々な知識や情報が共有され、新たな価値が生まれる社会
- AIにより、多くの情報を分析するなどの面倒な作業から解放される社会
- ロボットや自動運転車などの支援により、人の可能性がひろがる社会
- 少子高齢化、地方の過疎化などの課題をイノベーションにより克服する社会

産学官民金の各実施主体が取り組む4つの基本方向

1 ヘルスケア産業の連携基盤・研究開発基盤の充実・強化・活用

【取組例】

- 県内医療・福祉機関等が参画した実証フィールド体制の構築
- 医療・福祉現場等ニーズ収集の取組促進
- 「みえライノベーション推進センター（MieLIP）」等の機能充実と取組の促進 など

3 新たな健康需要に対応するヘルスケア産業（次世代ヘルスケア産業）の創出

【取組例】

- 次世代ヘルスケア産業（健康寿命延伸産業、認知症ケア製品等）の創出
- 国内産業用植物供給体制の構築と周辺産業の育成 など

2 医薬品・化粧品・医療機器・機能性食品等産業の競争力強化

【取組例】

- 戦略的企業連携・誘致の促進
- 革新的な医薬品、戦略的医療機器及び高付加価値な機能性食品等の創出
- 地域資源を活用した製品・サービスの創出 など

4 社会情勢の変化に対応する課題解決

【取組例】

- ヘルスケア産業人材の確保・発掘・育成
- さまざまな課題に対応する新たな取組 など

